



学校だより

大岳高く多摩秩父

瑞穂町立瑞穂第二中学校

令和3年度

第12号

令和3年12月8日(水)

校長 吉田 周平

E-MAIL mizu2jhs@bz04.plala.or.jp

TEL 042-557-5501

FAX 042-557-6048

令和3年12月4日(土)、瑞穂ビューパーク・スカイホールにて、第37回青少年の主張意見発表会が開催されました。

本校からは、2年1組 ○○さん、2年2組 ○○さんが優秀賞を受賞し、たくさんの観衆が見守る中、堂々と立派な姿で発表を行ってくれました。裏面には、その受賞作品を掲載しています。是非、ご一読いただきますようお願いいたします。

また、その他にも、様々な賞を二中学生が受賞しております。その一部ではありますが、第12号ではお知らせいたします。

今後も、頑張っている二中学生へのご支援、応援をよろしく申し上げます。

お知らせ Part 1 女子テニス部 冬季大会で第5位に入賞

12月4日(土)に行われた《第8ブロック中学校ソフトテニス冬季大会》において、瑞穂第二中学校 女子ソフトテニス部が第5位に輝きました。

3年生が受験のため部活動が一段落となり、1・2年生の新チームで臨んだ大会でした。

選手の皆さん、本当におめでとう。そして、これからますます寒さが厳しくなりますが、地道な練習を重ねていき、その成果が春季・夏季へとつながっていくことを願っています。

お知らせ Part 2 『調べるコンクール』入賞者紹介

瑞穂町図書館が主催する『調べるコンクール』に5名の生徒が入賞しましたので紹介いたします。1年生は「総合的な学習の時間」にグループで調べた国調べのレポートが、3年生は個人で調べた南天についてのレポートが評価されました。

5名の皆さん、おめでとうございます。

【最優秀賞】 南天解剖全書 ～南天の生態とは～
3年3組 ○○さん

【佳作】 ウズベキスタンの国調べ
1年1組 ○○くん・○○くん・○○さん・○○さん



お知らせ Part 3 『ノートまとめコンクール』入賞者紹介

瑞穂町で取り組んでいる『ノートまとめコンクール』の入賞者を紹介いたします。

中学校1年生の部 【本の紹介 イラストレポート】

【最優秀賞】 1年1組 ○○さん
【優秀賞】 1年3組 ○○さん・1年1組 ○○くん

中学校2年生の部 【ネットでミュージアム見学】

【最優秀賞】 2年2組 ○○さん
【優秀賞】 2年3組 ○○さん・2年3組 ○○くん

中学校3年生の部 【 $y=ax^2$ に関するレポート】

【優秀賞】 3年3組 ○○さん・3年3組 ○○さん



青少年の主張大会 優秀賞受賞作文の紹介

テーマ：資源の大切さ 2年2組 ○○さん

皆さんは、資源について考えたことがありますか。資源は私たちが生活する上で、必要不可欠なものです。私たちの身の回りにある水も木材も金属も全て資源であり、自然からもらっています。そんな資源は、現在の技術や経済的な条件のもとで取り出し、使える年限が限られています。資源は色々な製品を作るための原料や工場の機械を動かすエネルギーでもあるので、資源がなければ新しい製品を作り出すことができません。すると、電気も作れなくなり、飛行機や電車、自動車も動かない不便な社会になってしまいます。他にも、資源は産出地域が偏っていたり、種類によって地球上の限られた地域でしか産出されなかったりするものがあります。また、鉄鉱石は、地球が誕生した時に作られ、二度と新しく作ることはできず、石油は生き物の死がいから何億年もかけて作られたものであり、21世紀のうちに全部掘りつくしてしまうのではないかと心配されています。

このように、資源はいつまでも限りなくあり続ける物ではなく、限りある物です。だから、私たちは資源を大切に使うしなければなりません。そして、いつまでも資源豊富で、人々が生活しやすい社会にしていかなければいけません。そのために、各地でたくさんの取組が行われています。

例えば、SDGs の目標12番に「つくる責任つかう責任」というものがあります。この目標には「天然資源を持続可能な管理および効果的な利用を達成する」というターゲットを掲げ、様々な取組が実施されています。他にも3Rというものがあります。3Rには使い終わった物を資源に戻して製品を作るリサイクル、一度使った物をごみにせず何度も使うリユース、製品を作る時にできる限り新しい資源を使う量を少なくし、無駄なごみの量をできるだけ少なくするリデュースの3つがあります。実際に、牛乳パックからトイレトーパーが作られたり、ペットボトルから服が作られたりしています。また、瑞穂町では、リサイクルと環境学習を推進することを目的として設置された「みずほエコパーク」があり、毎年ここで、みずほエコパークフリーマーケット「みずほ青空市」が開催されています。

私は資源を大切に使うために、様々な取組が行われていることはとても良いことだと思いました。また、世界中の人々、一人一人が資源の大切さを理解し、資源を守っていくことも大切だと思えます。

私は、これから資源を守るための取組に参加しようと思います。また、今までの生活を振り返り、普段の生活で自分ができることを考え、実行していこうと思います。そして、自分の身の回りで資源を大切にしていない人がいたら注意し、資源の大切さを伝えあっていきたいです。

テーマ：障がいと教育 2年1組 ○○さん

「持って行ってあげる」後ろから声を掛けられた。突然のことで驚いたが、嬉しかったことを覚えている。2年になり、教育支援補助員の先生が外れて、荷物をいっぱい持って教室移動をしている私を見て、助けてあげようと思ってくれたらしい。

私は左半身麻痺という障がいがあり、補装具を付けて歩けていますが、教室移動などでは補助が必要です。そのため、1年生の時は教育支援補助員の先生についてもらい、通常級での生活に慣れていきました。このまま2年生になるだろうなど、その頃は思っていました。しかし、2年生になり、先生が外れてしまいました。いなくても大丈夫かとても不安になりました。しかし、その不安はすぐなくなりました。困っている私を見て、声を掛けてくれるようになったからです。私も自分から頼みやすくなりコミュニケーションを取れるようになりました。

その経験から私は、互いに理解を深め、協力し合うことが大切だと思いました。このような環境を整えるために、障害者差別解消法という法律が2016年に施行されたこともあり、学校においても合理的配慮が努力義務となりました。私に障がいがあっても、教育委員会や先生方の理解、支援のおかげで通常級で過ごすことができます。

最近では、インクルーシブ教育が注目されています。その教育とは、障がいの有無に関係なく、誰しものが望めば、自分に合った配慮を受けながら通常級で学ぶことを目指すものです。具体的な取組としては、基本的な環境を整えることや合理的配慮等があります。例えば、車椅子で過ごす子どもにとって階段しかない校舎は、自力での移動が難しいため、スロープやエレベーターを設置することや、読み書きの難しい子どもに黒板の撮影や印刷を許可すること等の例があります。この取組を通して、インクルーシブ教育が最終的に目指すことは、障がいがある人も共に生きやすい社会のために一人一人に最適な支援を提供すること、みんな一緒に学べる環境を作ること、この二つを実現することです。

私は、法律・教育体制・学校設備等が整ってきたおかげで、友だちとコミュニケーションを取れるようになり、楽しく学校生活を送ることができています。このような環境を整えてくださった方々や、理解してくれる友だちにも恵まれたことに感謝したいと思います。こんな風に、これから先、障がいの子ども達も過ごせたらいいなと私は思います。だから、将来、障がいがある子ども達を支えられるような存在になりたいです。そうなるためにも、一障がい者として、これからも努力して生きていきたいと思っています。